

「神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会」の記録

(『むくげ通信』279号、2019.11.24)

飛田雄一

「神戸電鉄朝鮮人労働者の像」は、1996年11月24日に完成した。金城実さん制作の像で、神戸市兵庫区会下山（えげやま）町、会下山公園の南はずれにある。設置したのは「神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会」（以下、追悼する会）。像は神戸電鉄の線路が見下ろせる所にある。毎年10月に追悼集会を開いているが、今年の先月10月20日に開かれた。毎年10月の第3日曜日に開かれるのが原則だ。

今年は、朝鮮高校の学生も参加して開かれた。終了後の烏原（はらすはら）貯水池公園での徐根植調査する会代表のセッティングによる焼肉の会も恒例行事だ。



2019.10.20

●「追悼する会」スタートする

追悼する会は、1993年4月からの準備期間を経て、7月22日、神戸学生青年センターで発足集会を開いた。代表は落合重信さん、当時神戸史学会代表で、かつて会社側の依頼により『神戸電鉄50年史』の執筆にもかかわった。当時会社側が朝鮮人労働者のことをひとことも知らしてくれなかったと憤慨して話されたことがある。（代表は、落合さんの死後、徳富幹生さん、現在は徐根植さんである）

発足集会では、追悼する会は、①調査活動の具体化（調査チームを発足させる）、②賛同人を広く募る、③神戸電鉄側に資料の提供を依頼する、④「追悼碑」建立を目ざす、⑤当面、11月21日—藍那トンネル事故57周年—に追悼集会、中間報告会に全力で取り組むという行動提起を確認している。

追悼する会の呼びかけ人には、以下の人々が名前を連ねている。（所属等省略）

落合重信、本岡昭次、浦井洋、柏原淳江、新聞智照、堀内稔、麻田光広、河村宗次郎、上垣正明、飛田雄一、北里秀郎、宮崎定邦、初瀬龍平、家正治、滝沢秀樹、領家穰、若生みずず、成文慶、呉相現、金守良、李鐘順、朴鐘鳴、徐根植、権誠治、林茂男、韓哲曦、黄光男、慎鏞浩、郭賢鶴、高龍秀、金正郁（93.7.22 現在）

●藍那トンネル集会

同年11月21日、藍那トンネル事故57周年の追悼集会および中間報告会が開かれた。藍那トンネルでは、1936年11月25日、11名の朝鮮人労働者が生き埋めとなり内6名が死亡するという大きな事故が起きたのである。



1993.11.21 新開地神戸電鉄本社前

当日午前10時、新開地の神戸電鉄本社前で「サムルノリ」が演奏された。その後神戸電鉄に乗り藍那駅で下車してトンネルに向かった。雨が激しくなったので工事中の新しい藍那トンネルを利用して追悼会が開かれた。（追悼する会ニュース 1994.4.15 には、複線化のための新藍那トンネルと書かれている。当時そのように説明されていたようだが、現在は事故のあった旧トンネルは閉鎖され新トンネルが単線として使用されている。）

藍那での追悼会ののち、新開地の妙法華院（新聞智照住職）で調査活動等の中間報告会が開られた。

●当時を知る証言者に出会う

調査活動に当時の事情を知る方の証言は貴重なものでありますが、藍那トンネル事故を目撃した李秉萬さんの証言を得ることができた。李さんは父が藍那トンネル事故当時、飯場頭をしており家族とともに現場近くに住んでいた李秉萬さんが事故を目撃したのである。追悼する会ニュース 2号（1994.4.15）に以下の証言がある。

工事は鈴蘭台付近からは始まったのですが、工事が進むにつれて私たちの住むバラックも移動しました。それで朝は五時半に起きて、弟と二人で線路沿いに学校まで一時間半かかって通いました。帰りは行きと同様にすっかり暗くなっていました。／当時のバラックというのは床のない藁敷きだけの、とても人間のすむところではありませんでした。鈴蘭台から

工事が始まって、最初のトンネル工事の際一人か二人事故に
遇ったようです。三つ目か四つ目の事故（1936 年 11 月
25 日の藍那トンネル事故と思われる）のときはトンネルの
両方が塞がるという大きなもので、男も女も総出で、スコッ
プや素手で掘り出しました。やっとの思いで掘り出したとき
はもう冷たくなっており、遺体を抱いて「アイゴー、アイゴ
ー」と泣き叫んでいました。怪我をした人たちは周囲に病院
がないことからトロッコに乗せて街まで汗だくになって運
びました。（略）／（事故後）アボジとアボジの弟が中心に
なって、朝鮮に家族がいるだろうから遺骨を送ってあげな
ければ、ということで、会社側と掛け合ったそうです。しかし
会社側はそんな金はないと突っぱねるし、結局物別れになっ
て、三日間工事は中断したそうです。アボジは会社側から交
渉を扇動したとの理由でクビを言い渡され、神戸の脇浜に移
り住んで川重（川崎重工業）で働きました。まあ、今になっ
て考えても、安全性を無視した危険な労働に従事させられた、
ということですね。

また追悼する会の新聞記事をみたという、鈴蘭台
在住の藤井包子（かねこ）さんから次のような手紙を
いただいた。そして後日、藤井さんに案内していた
だいて鈴蘭台付近を歩いた。

先日朝日新聞紙上で拝見しました。私は 1935 年ころか
ら 20 余年鈴蘭台に住みました。当時、父が「三木線工事の
爆破で朝鮮人がたくさん死んだ」といって帰ってきました。
私は小学校の 1 年生で 1936 年頃だったと思います。／鈴
蘭台の駅前で合同葬が行われましたが、日本人の葬式と違う
ので、それが強烈な印象として残っています。ちょうど舍利
容器の形で棺をのせ、四隅から飾りが垂れ下がりがみこしのよ
うに担いでいきます。その後から「アイゴー、アイゴー」と
大きな声で泣きながら続いていた様子が今でも思い出され
ます。

●事故の犠牲者

藍那トンネル事故を含めて 13 名の犠牲者がでた
が、その事故現場、名前、年齢、本籍は以下のとお
りである。（『神戸新聞』と『朝日新聞』より作成）

■1 1927 年 8 月 1 日 二名

山田村下谷上 竹藪切り工事中に土砂崩壊

①韓啓文 42 歳

②趙鳳珠 30 歳

■2 1928 年 1 月 15 日 二名

神戸市東山町四丁目東山トンネル東入口夜間作業中

③金相燮▲ 26 歳 慶尚北道栄川郡上里面古頃羽

④黄範寿●▲ 31 歳 慶尚南道蔚山郡農所面

■3 1928 年 5 月 7 日 二名

山田村原野字奥谷 墜落した石の下敷

⑤朴鍾述 27 歳

⑥金永得 26 歳

■4 1928 年 10 月 23 日 一名

烏原水源地奥 トロッコ同士衝突

⑦姜太龍▲ 26 歳

■5 1936 年 11 月 25 日 六名

山田村藍那トンネル東入口 土砂崩壊

⑧朴南槿▲ 32 歳 慶尚北道高靈郡雲水面黒樹里

⑨金鳳斗●▲47 歳 慶尚南道固城郡下二面月興里

⑩金東桂●▲25 歳 同上（⑨⑩は父子）

⑪李命福▲ 24 歳 慶尚北道盈徳郡南亭面鳳田洞

⑫姜学守▲ 36 歳

⑬陳南述▲ 30 歳

（※註、▲印は鶴越斉場の台帳で確認 ●印は本籍地で確
認）

この 13 名の犠牲者を新聞記事で突き止めたのは
故金慶海さんだ。事故記事のなかからことさら朝鮮
人の記事を収集したのではなく、すべての事故の記
事を収集した結論として死亡者 13 名全員が朝鮮人
だったのである。

●遺族への手紙、そして訪問

以上の朝鮮人犠牲者について、民団の協力も得て
判明した遺族に、1994 年 4 月 4 日、当時の事故の
新聞記事を同封して手紙を送った。上の記事の④黄
範寿さんの孫・黄善済さんと、藍那トンネル事故で
親子とも犠牲となった⑨金鳳斗さんの子であり⑨金
鳳斗さんの弟である金漢圭さんである。直接訪韓し
てお話をうかがいたいこと、8 月の神戸での追悼式
に来日していただきたいことなどを書いた。

返事があるどうか、半信半疑だった。なにしろ
1920 年代 30 年代の事故なので、40～50 年前の話
である。

が、返事がすぐにきた。黄善済さんは、「お恥ずか
しいことに私の祖父の死亡原因を知らずに過ごして
きました。最大限の助力をいたします」、金漢圭さん
は、「思いがけない消息で我々はとても驚きましたが、
大変うれしい知らせでした。お会いできる日を指折
り数えてお待ちしています」という内容だった。

追悼する会事務局会議で相談し、事務局長の私が
訪韓することになった。当時、朝鮮籍の在日朝鮮人
は韓国に行けなかった時代で、調査チームの中心メ
ンバーであった金慶海さんも行くことができなかった
のだ。私は同年 5 月 17 日から 20 日、訪韓した。
飛田がむくげ通信』144 号（1994.5.29）に「神戸
電鉄敷設工事で犠牲になった朝鮮人労働者の遺族を
訪ねる韓国への旅」を書いているので詳細はそれ
を見ていただきたい。（飛田『旅行作家な気分—コ
リア・中国から中央アジアへの旅—』（合同出版
2017.1 に再録））また、1994.5.16 飛田がサンテレ

ビデオを借りて撮影した映像などから編集された5分間のニュースとして放映された。

黄善済さんは蔚山市、金漢圭さんは固城郡におられた。いずれも慶尚南道で、釜山から入国した。釜山には古くからの友人で釜山外国語大学の林オンギュさんと釜山滞在中の出水さんが迎えてくれた。

翌日、林オンギュの車が車をだしてくれ、同じく釜山の友人の金大植さんと3人で固城郡の金漢圭さんを訪ねた。そこで金漢圭さん、奥様の李今年さん、姉さんの事故当時21歳で神戸にいた金順牙さんとお会いました。

蔚山へは金大植さんと神戸大学にも留学していた金河元さんが案内してくださった。手紙のやりとりをした孫の黄善済さんはソウル出張中でお会いできなかったが、亡くなった④黄範寿さんの息子・黄海龍さんの奥様＝尹福祚さんとお目にかかった。そして、事故当時8カ月だった黄範寿さんの娘・黄戊順さんが健在で釜山にお住まいだうかがった。そしてその日の夕方、釜山で黄戊順さんともお目にかかった。黄戊順さんと尹福祚さんのお話を総合すると以下のようなことだった。

④金範寿さんが亡くなったのは陰暦の12月22日（1928年）で、前年の晩秋に日本に行き、その冬に亡くなった。神戸の“炭鉱”で落盤事故のために亡くなったと聞いていたが、今回、それが電車のトンネル事故であることが分かった。骨壺と銅銭ひとにぎり、小包で、死亡後、3か月ぐらいして届いた。黄範寿さん死亡後、奥さんは大変な苦勞をしたが、黄戊順さんを小学校までだしてくれた。

持つべきものは友だちで、上記の友人と神戸では神戸大学留学中の鄭燦珪さんに韓国への手紙、録音テープの聞き取りなどでお世話になった。

●遺族を招いての追悼会

神戸電鉄には、1994.3.24、①8月に興隆寺（神戸市北区、神戸電鉄の菩提寺、通称聖天さん）で行われる法要に、朝鮮人犠牲者の名を銘記し追悼すること、②同法要に朝鮮人犠牲者遺族を招待するころ、③朝鮮人犠牲者の追悼碑を建立することを要望していた。

最初はゼロ回答であったが、その何回かのやりとりがあり、1994.6.23付で以下の回答がきた。

①貴会の計画されている追悼行事を興隆寺でしていただき、その中で当社の弔意の表明として、同寺の過去帳に犠牲者の名を記載させていただきます。②追悼行事の費用の一部を「お供え」として負担させていただきます。③当社は、慰霊を興隆寺の法要のみで行い、他に追悼碑は建立しておりませんので、当社主体での追悼碑は建立しかねます。

不満の残る回答だが、追悼する会ではこれを受け

て、8月28日、韓国より遺族を招いて興隆寺で追悼会を開くことになった。飛田訪韓のときにお訪ねした。④黄範寿さんの息子の奥様・尹福祚さん、⑨金鳳斗⑩金東桂さんの遺族、金順牙さん、金漢圭さん、李今年さんの4名が来日された。遺族を招いての追悼集会等の様子は、1994.8.30 読売テレビのニュースで8分間放映された。遺族は事故現場の東山トンネル、藍那トンネルも訪問した。（追悼集会の様子は、調査する会ニュース4号（1995.5.15）参照。神戸新聞1994.8.28、朝日新聞1994.8.29も。）

●阪神淡路大震災の波紋

遺族を招いての追悼集会も終わり、調査する会として最後の仕事は、追悼碑（モニュメント）の建立ということになった。そのようなときに阪神淡路大震災（1995.1.17）が起こった。

その後のことについて、金慶海さんが次のように書いている。

1995年3月13日、集まれる者だけが集まって震災後初の事務局会議が開かれた。集まったのは、飛田さん、林昌利さん、全隆男さん、李相泰さんと私の5人だけだった。みんな心痛な表情。前へと進むべきか、当分のあいだ、休むべきか？ まよった。／議題の一つは、追悼碑の建立問題だった。震災の復興がいつ終わるかも解らない状況で、これからの運動をどう進めるべきかが話合われた。この運動の中心は神戸だが、その被害があまりにもひどい状況では、数百万円もの大金がかかろうと試算されている追悼碑の建立費用を集めにくいので、その建立を先送りしようとの意見もでた。しかし、機を逸したらまた建て直すことはとても難しいことになるだろうから、既定方針どおりやり遂げよう、来年（1996年11月、藍那トンネル事故記念日に合わせて）には追悼碑を建てようとなった。そのための集会を5月25日に関することを決めた。（金慶海「朝鮮人都労働者の像」を建てる―日本と朝鮮との友好の誓い（兵庫朝鮮関係研究会『近代の朝鮮と兵庫』2003.11、明石書店、所収）

1995年5月15日、追悼碑建立のための集会が神戸学生青年センターで開かれた。金慶海さんの「神戸電鉄敷設工事と朝鮮人労働者」の講演の後、追悼碑建立のための話し合いが行われた。合わせて、調査する会の代表・落合重信さん（1995.2.15 死亡）と事務局の成文慶さん（1995.1.17 震災で死亡）の追悼の集いももたれた。

11月26日には予定どおり「神戸電鉄藍那トンネル事故59周年・追悼集会」が藍那現地で開催された。そして1996年11月、藍那トンネル事故60周年のときに追悼碑をつくることが発表された。あわせて追悼碑建立のための600万円募金がスタートした。



金城実さんによる第1次原画、筋骨隆々の朝鮮人労働者はおかしいなと事務局会議より意見、金城さんに伝えた。

●そして、追悼碑建立

追悼碑建立について、大きな課題となるのが土地の問題だ。追悼碑以上に費用の問題がでてくるのである。まず既述のように神戸電鉄にその用地の提供を求めたが無理だった。一方阪神淡路大震災以前から神戸市との話し合いが始まっていた。

神戸電鉄の電車が見える神戸市の公園を要望した。神戸市は土地提供のために努力してくださり実現することになった。そして、1996年11月24日、韓国から遺族も招き除幕式が挙行された。1996年後半の動きについて事務局会議メモを参考に記録してみると以下ようになる。

5.22 神戸市訪問

6.6 事務局会議

8.15 追悼碑募金のため呼びかけ人依頼発送

8.29 事務局会議

9.12 事務局会議

9.20 神戸市と打ち合わせ

10.3 事務局会議

10.12 韓国の遺族に除幕式招待状を発送

10.14 神戸市より追悼碑設置許可

10.17 記者会見

10.17 呼びかけ人に除幕式案内発送

10.18 読売新聞等に報道

10.27 除幕式プレイベント・フィールドワーク

10.31 事務局会議

11.14 事務局会議

11.15 追悼碑（ブロンズ像）設置

11.17 追悼碑の場所に植樹

11.18 「リレント小谷」にテント等見積もり依頼

11.22 『鉄路にひびくアリランの唄』1500部完成

11.23 事務局有志と遺族の懇親会（西宮、南大門）

11.24 除幕式、平安閣でレセプション

12.19 事務局会議

先の金慶海「朝鮮人労働者の像」を建てる」では以下のようにある。が、いま、その記憶はほとんどない。

1996年11月20現在で、匿名希望者25名を含む370名の個人賛同者と匿名希望1団体を含む33団体が賛同してくださった。しかし、募金額は2,851,000円。／96年12月に開かれた年内最後の事務局会議では、来年1年間は事故のあった5か所をその都度田主馬手廻り、簡単だが慰霊式を行うことを決めた。その決定に従って1997年1月15日は、東山トンネル事故69年目に当たるので追悼式を行った。／しかし、お金が集まらず。むくげの会から40万円と飛田事務局長が100万円を借り入れて、残りは金城さんに残り分は精算した。残りの借金清算のため、また、有志の方々に募金をお願いする郵便を発送。その結果、97年末で最後の借入先（飛田事務局長からの借入金）の借金がなくなった。みなさんのお陰で大きな課題が解決できた。

今回、このレポート作成のために記録を整理した。思い出したこと、再発見したことも多かった。いずれ本格的な記録／資料集を作らねばと、思うことは、思っている。

<参考文献>

- ・ 若生みずす「朝鮮人労働者の兵神ゴム争議について」（『在日朝鮮人史研究』10号、1982.7）
- ・ 金慶海「神戸電鉄を作った同胞たち」（兵庫朝鮮関係研究会『在日朝鮮人90年の軌跡—続・兵庫と朝鮮人』、神戸学生青年センター出版部、1993.12）
- ・ 金慶海「神戸電鉄を敷設した朝鮮人たち」（『歴史と神戸』186号、1994.4）
- ・ 金慶海「朝鮮人労働者の像」を建てる—日本と朝鮮との友好の誓い」（兵庫朝鮮関係研究会『近代の朝鮮と日本』明石書店、2003.11）
- ・ 飛田雄一「神戸電鉄朝鮮人労働者モニュメント」ひょうご部落解放・人権研究所『人権歴史マップ 淡路・神戸増補版』2014.3
- ・ 追悼する会ニュース 1号 1993.10.25／2号 1994.4.15／3号 1994.7.20／4号 1995.5.15／5号 1995.11.1
- ・ 追悼する会『神戸電鉄敷設工事と朝鮮人労働者《資料集》』1993.7.22
- ・ 追悼する会『鉄路にひびくアリランの唄—神戸電鉄敷設工事と朝鮮人』1996.11.24
- ・ <テレビニュース>1993.11.17 サンテレビ、9分（1993.2.3の再放送）／1994.6.16 サンテレビ、5分／1994.8.30 読売テレビ、3分